

編集後記

※渡世汁三四号の奥付を
みると一九八〇年六月三
〇日発行となっている。

こんなに長いこと渡世
を出してなかつたのか、
われながら涙が出そうに
なるほどなさけなくなっ
た。

それにしてもおかし
と、三十三号を見るこ
と、
八〇年十二月三十一日発

行となっている。

そうだろう、ハ一年六月
のまぢがいだろう、と、自
分のまぢがいに振りまゆき、
れている。

ハヶ月ぶりの渡世、ハ〇
頁が再登場、今宮康之介さ
んも新たに加わって、これ
からカンバル、と言いたい
ところだが、四〇号を×ド
にやめよか、という話もお
る。四〇号を出すころには
渡世を始めて頂度十年くら

いた、ていることだろう、

読者のみなさんのお考
えやいかたに、

いざねにしても、アシ
ユラの新しい連載が終り
るまでは廃刊できな、の
で、なるべく長く連載して
もらいたい気持ちもある。

労務者渡世 第三五号
定価 一〇〇円
発行 一九八二年三月三〇日
編集 労務者渡世編集委員会
大阪市西成区萩之茶屋
三―六―三五「お握り屋」気付